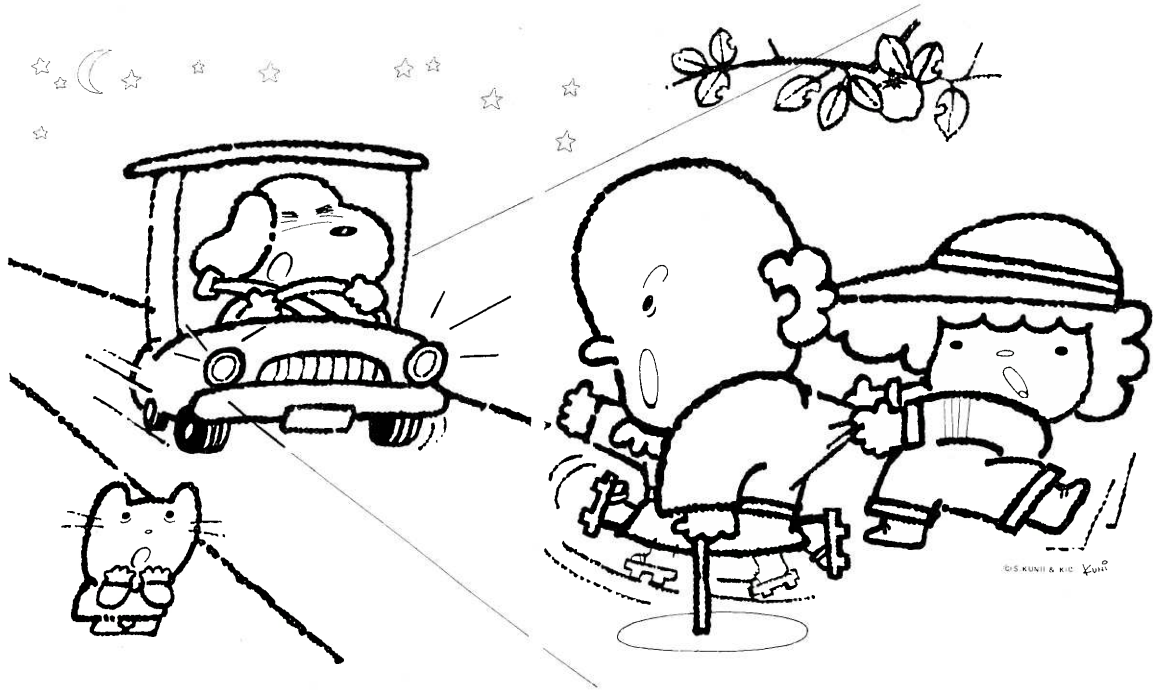


令和元年

秋の交通安全市民運動 実施要綱

9月21日（土）～9月30日（月）



一宮市・一宮市交通安全都市推進協議会

**ストップ・ザ
交通事故**

**高めようモラル
守ろうルール**

一宮市交通安全条例

が制定されました。

この条例は、交通事故のない安全に安心して暮らすことができる地域社会を実現させるため、

○基本理念

○市、市民及び事業者の責務

○交通安全に関する施策の基本となる事項

について定めています。

平成27年4月1日施行



【基本理念】

- 1 人命尊重の理念に基づき、歩行者、高齢者等への一層の安全を図りましょう。
- 2 市、市民及び事業者の自主的かつ積極的な交通安全への取組を推進しましょう。
- 3 市、市民及び事業者が相互に連携し、かつ、協力して交通安全に取り組みましょう。

※条例は15ページ以降でご確認ください。

秋の交通安全市民運動実施要綱

1. 目的

秋は、気候もよく過ごしやすいくなるため、行楽やスポーツなどで外出する機会が増え、人や車の動きが盛んになります。一方、この時期は日没時刻が日増しに早くなり、夕暮れ時から夜間にかけて、運転者から歩行者や自転車の動きが見えづらく、子どもや高齢者が交通事故に遭う危険性が高まります。

そこで、市民一人ひとりが交通安全意識を高め、交通ルールの遵守と安全確認を徹底すると共に、思いやりのある交通マナーを実践することにより、交通事故の防止を図ります。

2. 期 間

令和元年9月21日（土）から9月30日（月）までの10日間

3. 主 唱

一宮市・一宮市交通安全都市推進協議会

4. 実施機関・団体

市内の各種団体

5. 年間スローガン

「交通事故絶滅」を願って、

市民一人ひとりが交通安全を心掛けよう

サブスローガン

広めよう 交通安全スリー^{エス}運動

スリーSとは・・・

- Stop（ストップ）

赤信号はストップ、一時停止場所でストップ、飲酒運転をストップ

- Slow（スロー）

高齢者や子どもを見たら速度を落とすスローな運転

- Smart（スマート）

全ての人に対して思いやりをもった、スマートな運転



6. 運動の重点

- (1) 子どもと高齢者の安全な通行の確保
- (2) 高齢運転者の交通事故防止
- (3) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故防止
- (4) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (5) 飲酒運転の根絶
- (6) 家庭から交通安全の輪を広げよう

7. 運動の重点施策

(1) 子どもと高齢者の安全な通行の確保

- ア 自宅周辺の危険箇所や事故にあわない安全な自転車の乗り方について話し合う。
- イ 子どもも高齢者も、ドライバーから目立つよう手をあげて横断する**ハンド・アップ運動**を推進する。
- ウ 交通指導や地域のパトロール活動を通じ、子どもと高齢者に交通安全を呼びかける。
- エ 運転者は子どもや高齢者の特性を理解して、子どもや高齢者を見かけたら速度を落とすなどの思いやり運転を実践する。

9月14日(土)～20日(金)は高齢者交通安全週間です。

(2) 高齢運転者の交通事故防止

- ア 加齢等に伴う身体機能の変化（認知機能の低下、反射神経の鈍化など）が運転等に及ぼす影響や高齢者の運転特性について交通安全の観点から話し合う。
- イ 運転免許証の自主返納について話し合う。
- ウ 高齢運転者は身体機能の変化を認識するとともに、長時間の運転、体調不良・天候不良時の運転を控える。
- カ 70歳以上の運転者について、高齢運転者標識の使用を促進する。



(高齢運転者標識)

(3) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故防止

- ア 夕暮れ時から夜間の事故を防ぐため、ドライバーから目につきやすい明るい色の服装の着用や靴、衣服などに反射材を付けるようにする。

イ 自転車の整備点検を行い、前照灯の早めの点灯をはじめ、交通ルール・マナーを理解する。

ウ **ライト・オン運動**（日没1時間前点灯）を実施する。

（9月は17時を目安に点灯する）

エ ドライバーは、夕暮れ時と夜間・早朝は、速度を落とすよう意識する。対向車や先行車がないときは、走行用前照灯（ハイビーム）を活用する。



オ 自転車に乗る時は、交通ルールとマナーを守るよう心がける。特に傘さし運転や携帯電話使用など禁止されている危険な運転をしない。また、歩道を通行するときは歩行者優先を徹底する。

カ 職場や学校、地域などで自転車の安全利用や運転マナーの向上、正しい駐輪方法を呼びかけましょう。

キ 「自転車安全利用5則」を守ろう。

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
- 5 子どもはヘルメットを着用

（4）全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

ア 「カチッと100！」を合言葉に、全ての座席のシートベルトの着用率100%を目指す。

イ 同乗者にもシートベルトの着用を徹底し、確認できたら出発する。

ウ 子どもの体格にあったチャイルドシートの使用と座席への正しい取付けを徹底する。



(5) 飲酒運転の根絶

ア 行楽の行き帰りは無理のない計画を立て、運転者には絶対にお酒を飲ませない。

イ 飲酒を伴う会合などは、公共交通機関、タクシー、運転代行サービス等を利用したり、家族の送迎を依頼したりする。

ウ 地域ぐるみで飲酒運転根絶のためのキャンペーンなどの広報・啓発を行う。

エ 地域・職場・家庭では、「**飲酒運転四（し）ない運動**」や「**ハンドルキーパー運動**」を推進する。

「飲酒運転四（し）ない運動」

運転者は……………○運転するなら酒を飲まない。

○酒を飲んだら運転しない。

家庭・地域では……………○運転する人に酒をすすめない。

○酒を飲んだ人に運転させない。



(6) 家庭から交通安全の輪を広げよう

ア 毎月1日の「一宮市交通安全デー」や、10日・20日・30日の「交通事故死ゼロの日」には、身近な交通事故を話題にし、家族みんなでお話し合い「わが家の交通安全宣言」を行う。

イ 家族が外出するときは「交通安全」のひと声をかける。

8. 運動の進め方

市、警察、教育委員会及び交通安全協会は、相互に緊密な連絡をとり、運動の周知徹底、重点施策の達成に努めます。

また、各実施機関・団体は、それぞれの実情に即した組織的、継続性のある具体的な運動計画を立て、組織全体にこの運動の趣旨が浸透するよう実施します。

平成30年中 都道府県別 交通事故発生状況

愛知県警察本部交通部

愛知県の交通事故発生状況より

死者数

順位	都道府県	30年中(人)
1	愛知	189
2	千葉	186
3	埼玉	175
4	神奈川	162
5	兵庫	152
6	大阪	147
7	東京	143
8	北海道	141
9	福岡	136
10	茨城	122
全国		3,532

人身事故件数

順位	都道府県	30年中(件数)
1	愛知	35,258
2	大阪	34,304
3	東京	32,608
4	福岡	31,104
5	静岡	28,420
6	神奈川	26,212
7	兵庫	24,731
8	埼玉	24,127
9	千葉	17,432
10	群馬	13,097
全国		430,345

注 愛知県を除く各都道府県の事故件数は概数

平成30年中 一宮市 年齢層別死傷者数 ()内は対前年比

種別	死傷者数(人)	うち死者数(人)
子ども(15歳以下)	166(-32)	0(-1)
若者(16~24歳)	422(-19)	1(-1)
一般(25~64歳)	1,517(-100)	1(-3)
高齢者(65歳以上)	412(-23)	5(0)
合計	2,517(-174)	7(-5)

平成30年中 一宮市 時間別人身事故件数

()内は対前年比

時間別	人身事故件数(件)
朝 (6～ 9時)	450 (-34)
昼 (9～18時)	1,168 (-28)
夜 (18～22時)	393 (-20)
深夜(22～ 4時)	134 (0)
合 計	2,145 (-82)



平成30年中 一宮市 事故類型別人身事故件数

()内は対前年比

事故類型	人身事故件数(件)
横断中	53 (0)
出合頭	848 (-66)
車輻单独	23 (11)
正面衝突	18 (1)
追 突	737 (14)
右左折	207 (1)
その他	259 (-43)
合 計	2,145 (-82)



実施要項

◎一宮市

1 広報などによるPR

市広報や広報用ディスプレイ等により、交通安全運動の周知徹底と交通安全意識の高揚を図る。また、市の各課へ会議等開催の際に、交通安全一口広報を実施してもらうよう依頼する。

(市民協働課)

2 広報車によるPR

広報車で市内を巡回し、子どもの飛び出し防止や、高齢者による車の直前直後横断の防止、横断の際の右・左・右の安全確認の励行を訴えるとともに、交通事故が多発している現況を広報し、歩道、歩道橋等の交通安全施設の利用をPRする。

運転者に対しては、「シートベルトをしめてゆっくり走ろう」運動で、高齢者・子どもなどの交通弱者を見たら徐行するよう呼び掛ける。

(市民協働課)

3 自転車シミュレーターの利用促進PR

町内会、老人クラブ、学校等で行われる交通安全教室で市が所有する自転車シミュレーターを利用し、自転車の乗り方、交通ルールを確認してもらうことにより交通安全意識の高揚を図る。

(市民協働課)

4 道路環境の整備

歩車道、路側帯などにおける不法看板等、通行の妨げになる物の排除を促進し、安全な交通環境の整備を図る。

(まちづくり部・建設部各課)

5 高齢者及び障害者に対する交通安全指導

高齢者の生きがいと健康づくり推進協議会、老人クラブ、障害者福祉団体などの組織を通じて交通安全を呼び掛けるとともに、その他の社会福祉関係団体にも運動の趣旨を周知し、交通安全意識の高揚を図る。

(福祉課・高年福祉課)

6 保育園・幼稚園における交通安全事業の実施

各園や保護者会に対し、幼児が交通ルールや交通マナーの基本を習得するための組織的、計画的事業の実施を働きかける。

(保育課)

7 交通安全資材等の配布

チラシや反射材など交通安全啓発資材の配布により、交通安全の促進を図る。

(市民協働課)

◎教育委員会

1 学校における交通安全事業の実施

事故に遭わないよう、児童生徒に対し交通安全運動の趣旨を周知するとともに、交通安全の啓発のため各校に対し組織的、計画的事業を実施するよう働きかける。

(学校教育課)

2 生涯学習関係団体の活動、スポーツ活動等における交通安全事業の実施

生涯学習関係団体の活動、公民館活動、スポーツ活動などを通じ、交通安全運動の趣旨を周知するとともに、交通事故防止に関する事業を実施する。

また、交通安全の基本理念「交通安全は家庭から」をふまえ、家庭を中心とした啓発活動を実施する。

(生涯学習課・スポーツ課)

◎学校

1 児童生徒に交通ルールを周知徹底する

低学年ほど事故に遭う危険が高い状況から、正しい通行方法、交通マナーを中心とした交通安全教室を開催するなど、基本的な交通ルールの理解に努める。

2 自転車の交通事故防止

自転車の正しい乗り方を指導するとともに、自転車の安全点検、ヘルメットの着用、ライトの点灯などを徹底し、整備不良車は使用させないようにする。

3 通学路の安全点検

通学路の安全性を点検し、その利用状況の把握に努めるとともに、交通安全意識の指導強化を図る。

4 地域との連携

見守り隊や地域交通安全会など地域と学校との情報交換や連携を密にする。

◎事業所など

1 交通安全旗、立看板などの掲出

交通安全を一層促進するため、安全旗、立看板などを掲出し交通安全意識の高揚を図る。

2 企業内若年ドライバーの運転マナーの向上に努める

若年ドライバーに対し、「シートベルト着用」「ゆっくり走ろう」など安全教育を徹底し、運転マナーの向上に努める。

3 自動車の安全運行や運転管理の再点検

雇主や安全運転管理者は、自動車の整備及び労務面の安全管理を再点検し、企業一丸となって事故を起こさないよう努める。

朝礼、諸会議等の機会を利用し、子どもと高齢者の特性について指導し、「子どもと高齢者を交通事故から守る」という意識を高める。また、「飲酒運転四（し）ない運動」や「ハンドルキーパー運動」を推進する。

◎地域交通安全会

1 町内会の各種会合を有効に活用した啓発活動を推進する。

2 地域住民に対し交通安全運動の趣旨を周知する。

3 地域の交通安全決起大会等地域に即した活動を実践し、交通安全意識の高揚を図る。

4 地域が一体となって「飲酒運転四（し）ない運動」を推進する。

◎老人クラブ、子ども会、女性の会などの団体

会員が事故に遭わないよう、組織を通じ交通安全運動の趣旨を周知するとともに、それぞれの団体に即した活動を実践し交通安全意識の高揚を図る。

◎警察署

1 各種媒体による交通安全意識の啓蒙

懸垂幕、立て看板などによりシートベルトの着用、スピードダウンなどのPR対策を実施し、ドライバーに交通安全を呼び掛ける。また、暴走による死亡事故が多発している現況を広報し交通事故防止に努める。

2 飲酒運転、暴走運転の危険性の周知と取締り強化

飲酒運転、暴走運転は死亡事故の原因となることから、継続的な指導を行い、取締り強化を図る。

3 違法駐車取締り強化

違法駐車は交通の妨げになるばかりでなく交通事故の原因になるため、その取締り強化を図る。

◎国道事務所、県建設事務所

交通標識及び歩道、路側帯など安全施設の点検並びに障害物の排除を促進し、交通環境を整備する。



令和元年 交通安全運動期間等一覧

春の交通安全市民運動期間（全国一斉）

5月11日～5月20日（10日間）

夏の交通安全市民運動期間（県内一斉）

7月11日～7月20日（10日間）

秋の交通安全市民運動期間（全国一斉）

9月21日～9月30日（10日間）

年末の交通安全市民運動期間（県内一斉）

12月1日～12月10日（10日間）

交通事故死ゼロの日

毎月10日・20日・30日

高齢者を交通事故から守る日

毎月30日（2月は末日）

高齢者交通安全週間

9月14日～9月20日（7日間）

自転車・二輪車安全利用の日

毎月10日

自転車・二輪車安全利用月間

5月

バイクの日

8月19日

ライト・オン運動（夕暮れ時の前照灯早め点灯運動）

年間通じて

横断歩道の日

毎月11日

シートベルト・チャイルドシートの日

毎月20日

シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間（各旬間の最後の平日は関所実施予定日）

2月11日～2月20日（10日間）

6月11日～6月20日（10日間）

11月11日～11月20日（10日間）

飲酒運転根絶の日

毎月第4金曜日

飲酒運転根絶強調月間

12月

一宮市交通安全デー

毎月1日

令和元年 交通安全年間スローガン

《運転者(同乗者を含む)へ呼びかけるもの》

内閣総理大臣賞(最優秀作)

チャイルドシート ちいさなVIPの 指定席

内閣府特命担当大臣賞(優秀作)

四輪に 無事故を足して 待つ五輪

警察庁長官賞(優秀賞)

全員の ベルトのカチャリが ゴーサイン

全日本交通安全協会会長賞(佳作))

夕暮れの 早めのライトで 防ぐ事故

大丈夫? 昨日のお酒も 気を付けて

歩行者を 守る気づかい 思いやり

《歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの》

内閣総理大臣賞(最優秀作)

危険だよ スマホに夢中の そこの君

内閣府特命担当大臣賞(優秀作)

赤信号 わたっとうしろに 子供の目

警察庁長官賞(優秀賞)

身につける 夜道のお守り 反射材

全日本交通安全協会会長賞(佳作)

小さな手 上げたら大きな 赤信号

点滅は 次の青まで 待つ合図

自転車の すりぬけ運転 事故の元

《中学生以下へ交通安全を呼びかけるもの》

内閣総理大臣賞(最優秀作)

とび出さない いったんとまって みぎひだり

内閣府特命担当大臣賞(優秀作)

ちゅういして くるまがくるかも まがりかど

警察庁長官賞(優秀賞)

登下校 いつもの道こそ 要注意

文部科学大臣奨励賞(優秀作)

自転車と いつも一緒 ヘルメット

全日本交通安全協会会長賞(佳作)

急がない 青しんごうでも 左右見て

見えてると 思うな あぶない 夜の道

うしろでも シートベルトを つけようね

令和元年広報重点

- ◆横断歩道 歩行者見たら まず止まれ！
- ◆その横断 見てまず真似ます 子どもたち
- ◆あぶないよ ながら運転 自転車も

一宮市交通安全条例

(目的)

第1条 この条例は、交通安全について、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、交通安全の確保に関する施策の基本となる事項を定めることにより、交通安全に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって市民が安全に安心して暮らすことができる地域社会の実現を図ることを目的とする。

(基本理念)

第2条 交通安全は、人命尊重の理念に基づき、自動車、自転車等と比較して弱い立場にある歩行者並びに交通事故に遭いやすい高齢者、障害者、児童及び幼児（以下「高齢者等」という。）への一層の安全を図ることにより確保されなければならない。

2 交通安全は、市、市民及び事業者の自主的かつ積極的な取組の推進により確保されなければならない。

3 交通安全は、市、市民及び事業者が相互に連携し、かつ、協力して取り組むことにより確保されなければならない。

(市の責務)

第3条 市は、基本理念にのっとり、市民及び事業者（以下「市民等」という。）の交通安全に係る意識（以下「交通安全意識」という。）の高揚を図るとともに、交通安全を確保するため、啓発活動その他の総合的な交通安全に係る施策（以下「交通安全施策」という。）を実施する責務を有する。

2 市は、交通安全施策の実施に当たっては、国、県、警察その他関係機関（以下「国等」という。）と緊密な連携を図るものとする。

(市民の責務)

第4条 市民は、基本理念にのっとり、交通社会の一員としての責務を自覚し、日常生活を通じて自主的かつ積極的に交通安全意識の向上に努めなければならない。

2 市民は、市及び国等が実施する交通安全施策に協力するよう努めなければならない。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、従業員に対する交通安全に係る教育（以下「交通安全教育」という。）の実施その他交通安全を確保するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

2 事業者は、市及び国等が実施する交通安全施策に協力するよう努めなければならない。

(良好な道路交通環境の確保)

第6条 市は、交通安全を確保するため、市の管理する交通安全を確保するための施設の整備を図り、良好な道路の交通に係る環境（以下「道路交通環境」という。）の確保に努めるものとする。

2 市は、良好な道路交通環境を確保するために必要があると認めるときは、国等に対し、必要な措置を講ずるよう要請するものとする。

(交通安全教育の推進)

第7条 市は、市民等の交通安全意識の高揚を図るため、地域、事業所、学校等における交通安全教育の推進に努めるものとする。

(広報啓発活動の実施及び情報の提供)

第8条 市は、市民等の交通安全意識の高揚を図るため、市民等に対し、交通安全に関する広報啓発活動を積極的に実施するとともに、必要な情報の提供を行うものとする。

(飲酒運転の根絶)

第9条 市は、国等と連携して飲酒運転の根絶に関する普及啓発活動を行い、飲酒運転の根絶に向けた規範意識が全ての市民等に確立されるよう努めなければならない。

2 市民等は、飲酒運転が重大な交通事故を引き起こす原因となることを認識し、家庭、地域、事業所等において飲酒運転を助長するおそれのある環境の除去を行うなど、飲酒運転を根絶するための取組を行うよう努めなければならない。

3 酒類を提供する飲食店及び酒類の販売店を営む者は、飲酒運転の根絶を呼びかけるポスター等を客の見やすい場所に掲示するなど、飲酒運転を根絶する

ための措置を講ずるよう努めなければならない。

(高齢者等の交通事故防止の推進)

第10条 市は、高齢者等の交通事故を防止するため、必要な施策を推進するものとする。

2 市民等は、高齢者等に対する思いやりの心を持ち、高齢者等が安全に道路を通行できるように配慮しなければならない。

(自転車の安全利用の推進)

第11条 市は、市民等の自転車の安全な利用の推進を図るため、必要な施策を推進するものとする。

2 市民等は、自転車を利用するときは、道路交通法（昭和35年法律第105号）その他の法令を遵守し、歩行者に危害を及ぼさないようにするなど、安全な利用に努めなければならない。

(暴走行為防止運動の推進)

第12条 市は、暴走行為による交通の支障及び交通事故の発生を防止するため、国等と連携し、暴走行為の防止運動の推進に努めるものとする。

(交通死亡事故等発生時の措置)

第13条 市は、交通死亡事故が発生した場合又は特定の地域において交通事故が多発した場合において、必要があると認めるときは、国等と協議し、交通事故の再発を防止するため、必要な措置を講ずるものとする。

2 市長は、市内において交通死亡事故が多発した場合において、一宮警察署長と協議の上、市民等に対し注意を喚起する必要があると認めるときは、交通死亡事故多発警報を発するとともに、国等と連携し、交通事故を防止するための総合的かつ集中的な対策を講ずるものとする。

(財政上の措置)

第14条 市は、交通安全施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(団体への支援)

第15条 市は、地域における交通事故の防止活動その他交通安全の確保に関する活動（以下「交通安全活動」という。）の促進を図るため、交通安全活動を行

う団体に対し、必要な支援を行うことができる。

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。